

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 15

学校名・団体名	本庄市立北泉小学校
HPアドレス	http://edu-honjo.com/kitaizumisyo/html/htdocs/index.php?page_id=0
コース	学校支援
活動・研究テーマ	児童の自立に向けた栽培を活用したキャリア教育
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <ul style="list-style-type: none">・本校では、各種調査や児童の実態から思考力・判断力・表現力の育成が課題であると考え、「自分のよさを発揮し、共に高め合う子」の育成を目指し、全ての教育活動の中でキャリア教育を行っている。・教科学習だけではなく、教科横断的に学習を行うことで、学習の広がりや自己の生き方に関する子ども達の考えを深め促すことができると考え、5・6年生に「総合的な学習の時間」に栽培を位置付け学ばせることとした。・「栽培」を通して、生命への理解を深める機会とするとともに着実に自分のよさや可能性の伸張を図り、将来にわたり生き抜く力を身に付けさせたい。	

1 活動の概要

- (1) 対象学年 5・6年生(97名)
- (2) 教科 総合的な学習の時間 5年生「米作り」、6年生「大豆作り」
- (3) ねらい 本校は埼玉県北部の畑と住宅に囲まれた落ち着いた地域に立地し、児童は明るく、伸び伸びとしている、開校143年目の地域に根ざした学校である。しかし、学区内にある新幹線本庄早稲田駅周辺の開発で、新興住宅地が広まり、三世同居の家族形態から核家族が圧倒的に増えている。子ども達は自然体験の減少と共に、人とのふれあいが希薄になっている。そこで、栽培体験(米、大豆作り)を通して、作物の生長と自分自身の成長を重ね合わせて学ぶことができる「総合的な学習の時間」を設定した。5年生の米作りは、地域の外部指導者、6年生の大豆作りは校長が行う授業とする。高学年としての自覚を高め自分の成長と共に他者のために力を出し、貢献もできる児童の心の成長に繋げたい。

(4) 活動の特色

①米作り体験(5年生)

本校では23年前から5年生において地域の指導者の協力を得て行っている「米作り」は、私たちの生活を支えている米の栽培を中心に、その文化、生産者の苦労等の学びを交える体験学習としている。

大きな特色としては、節目の儀式も静粛に行い、心の成長に繋げていることである。4月の「稲穂の受渡し式」では、昨年度の児童(新6年生)が育てた稲穂を5年生が引き継ぐところから始まる。6年生が心を込めて作った稲穂をその心掛けとともに引き継ぐ儀式である。緊張を伴うひとときが出发点となる。5月には種を蒔き、一粒の米が30倍にも40倍にも増えることを子ども自身の成長になぞらえてご指導いただく。6月に田植え、10月に稲刈りを行う。収穫した米で11月には飯盒炊さんを行い、薪で米飯を炊く体験をする。

写真1 稲穂の受け渡し式(4月)

〈昨年度収穫した稲穂を6年生が5年生に渡し米作りが始まる。先輩の苦勞に感謝〉



写真2 田植え(5月)

〈種まきをして育てた稲を手植えする。気持ちを揃えて一斉に行う〉



写真3 稲刈り(10月)

〈外部指導者のお手本を見て、分担して刈り取る。自分の役割を自覚するチャンス〉



写真4 修了式(12月)

〈昨締めくくりは実りの稲穂の受け渡し。次の学年のために半年間預かります。〉



②大豆作り体験(6年生)

5年生で半年間米作りをその心と共に学び、子ども達は成長した。最高学年となって自他共に大切にすることを身につけ、物事を深く考える体験をする。そこで、主食である米を育てた5年生での学びを生かし、深めるため大豆作りを学ぶ。

大豆は良質なたんぱく質を含む体の成長に欠かせない作物である。また、日本食の食材の中でも最も重要な役割を担うものである。日本の食文化を作り上げてきた調味料である醤油や味噌の原料であり、加工された納豆や豆腐など料理の食材としても重要なものである。そこで、主食と主なおかずの対比で、5年生では米作り、6年生では大豆作りで卒業期に学ばせる。大豆は収穫後、味噌に加工し、食文化の伝承を体験する。また、一次加工した後に時間をかけて熟成する過程は、自分自身が成長している過程と合致させて深く学ばせていく。

2 活動の時期及び内容

5年生

- 4月 稲穂の受渡し式(6年生から5年生に引き継ぐ)
- 5月 種まき。一人ずつ丁寧に育苗箱に蒔く。
- 6月 田植え。田んぼまで稲を運び、隊列を作って規則正しく植えていく。間隔を整えて植えることで収穫の成果に違いがあることを学ぶ。
- 9~10月 案山子作り。案山子立て。
- 10月 稲刈り。他者と協力して行うことを学ぶ。
- 11月 飯盒炊さん。生産の喜びを実感する体験で貴重な体験となる。
- 12月 もちつき。修了式。(校長から収穫した稲穂を一人ずつもらい、指導者への感謝を伝える)

6年生

- 5月 種まき。種の特徴、生育の道筋を理解し、命とその可能性について学ぶ。
- 6月 苗の植え付け。根を張った苗が自身の力で水を求めて深く根を下ろしていくこと、余分な手を加えず健康でたくましい苗に育つことを学ぶ。
- 6月下旬 支柱立て。
- 7~8月 害虫駆除。目配りで立派な苗に育ち収穫に繋がることを体験する。
- 10月 収穫
- 2月 味噌に加工。

3 成果

作物の栽培は食育や暖冬文化とも深くかかわる活動である。2カ年を通して、食の重要な構成要素である2種の作物の栽培と加工を経験し、日本の食文化を身近に体験することで、理解を深めることができる。また、自分自身の成長と重ね合わせ、日常的に学んでいる規範意識と共に、自他共に大切にすることができ、集団への貢献が出来るように成長した。卒業期にはこの2つの学習をまとめる校長講話を行い、成長を共に確認した。